

千年寺第二代鐵堂道融和尚墳墓ほか歴代住持墓所

(せんねんじ だいにだいてつどうどうゆうおしょうふんぼ ほか れきだいじゅうじぼしょ)

黄檗宗寺院である長継山千年寺は、もと清照院という寺があった地に津山藩第2代藩主森長継が建立した寺院で、森長継が生前に建立した逆修塔(寿塔)(市指定重要文化財)が現在も残っています。

境内には、建立当初の建物は残っており、嘉永元年(1848)長継公150回忌の際に再建された鐘楼が修繕、増築を繰り返して、現在の建物となっています。

第二代鐵堂道融和尚の墳墓は、東西5.5m、南北6.8m、高さ約3mの円墳で、前面に切石を4段積み上げて築かれた石室をもつ構造です。北側が開口部となっており、この部分は花崗岩製の切石で塞がれています。また、石積みが出ている北側開口部を除く墳丘の周囲には、幅約1.7mの排水溝が巡らされ、排水溝を含む全体の規模は、東西14.5m、南北18.2mとなります。閉塞石には、「元禄十五年歳次壬午 當山第二代鐵堂融和尚塔 九月二十有三日」と刻まれています。

黄檗宗大本山萬福寺第2代住持で、千年寺開山和尚である木庵禅師の墓(萬福寺境内)も同様に切石を積み上げた形状を呈しており、黄檗宗寺院の墓として類似性が認められるものです。なお、墓地に向かう道は林になっており、墓域の東西両側には歴代住持の墓があります。

(平成24年6月26日指定)



大隅神社の木造獅子狛犬(おおすみじんじやのもくぞうししこまいぬ)

獅子(阿形)は、首を左(参拝者の方向)にひねりやや上向きに大きく口を開いています。高さ29.5cm、前後(鼻~尻)33.0cm、幅16.0cm。

狛犬(吽形)は、獅子に相対するように首を右(参拝者の方向)にひねります。高さ30.5cm、前後(鼻~尻)37.0cm、幅14.0cm。

獅子・狛犬ともにヒノキ材の一木造で、各所に下地である白土(胡粉か)

が残ることから、もとは彩色があったと考えられ、四肢、尾、耳などの細部が失われていますが、制作年代は1500年代から1600年代の初頭にかけてと推測されます。市内に残る木造獅子狛犬は、他には高野神社の木造獅子2対(平安時代前期、国指定)の他にはなく、貴重なものです。

なお、大隅神社は本殿、神門、昭徳館が市の重要文化財、御輿が市の重要有形民俗文化財として、境内は市史跡の指定を受けています。(平成24年9月25日指定)



獅子(向かって右)、狛犬(左)